

# 扶桑社版 教科書調査報告書（学校用）表記一覧

## 総合所見:

- \* 1～18の番号をつけた学校の評価は明らかに扶桑社版をマイナス評価している。
- \* 19～23の番号をつけた学校の扶桑社版の評価が特別高いのではなくて、他の出版社と同じ内容が書かれているといえる。(どの出版社の教科書もマイナス評価はしない)
- \* 2005年の時よりこの傾向は顕著で、4年間使った教師たちが改めて扶桑社版の教科書のマイナス評価を高めていると考えられる。
- \* そのように考えると、今回教師たちは「この教科書を避けたい」と強く考えていたことが充分にうかがえる。
- \* 種目別調査報告、教科書調査委員会報告がそのような表記になったのはなぜ？ 大きな疑問。

学校	調査研究の観点					総合調査・研究結果
	1. 内容の選択	2. 構成・分量	3. 表現・表記	4. 使用上の表記	5. 地域性	
1	内容は豊富で図版は興味・関心がわくように工夫されている。	日露戦争、第2次世界大戦などは当時の世界とのかかわりの中(世界の視線)で表現されていない。特にアジア諸国に多大な損害を与えた視点が欠落している。	人物コラムの人選に偏りが見られる。多面的な表記が必要。	写真の大きさと内容の重要性が必ずしも一致していない。		豊富な内容、図版の工夫がなされているが、日露戦争・第2次世界大戦などについて、世界史からの視点の欠落が見られる。人物コラムの人選に偏りがあり、また写真の大きさと内容の重要性について課題がある。
2	歴史の流れを「歴史のものさし」で表しとらえやすくしている。	人物に重点が置かれ世界の歴史への分量が少ない。	難しい語句が多く文末も硬い表現である。	写真や図版が大きく鮮明で見やすい。	特になし。	読み物や人物を多く取り上げその時代の様子が理解できるようになっている。中央の歴史に主体がおかれ民衆の視点に立った記述が少ない。
3	詳しい部分と簡略化されている部分が極端である。	見開き2ページがひとつのテーマで構成されている。	客観的視点にかける表記が見られる。	ノートと同じB5版で作成されている。	課題学習のコーナーでは身近な文化財への興味・関心を促している。	原始から近現代まで世界史の流れを捉えて、日本の歴史を理解するには偏った内容の選定である。
4	世界の歴史との関連が少ない	中世がやや少ない	説明超の文章で難易度が高い。	日本の伝統を伝えるための資料は多彩である。	特に目立った関連性はない。	文章の難易度は高めである。
5	写真資料の精選がされていない。大きさも視覚的効果が弱い。資料が発達段階にそぐわね(ない)。	ページの構成のまとまりがなく、単元の配列も分かりにくい。	文章上読みづらく分かりにくい表現がある。新たな説明が必要な表記も多い。	年表が開けず使用しづらい。	人権に対して記述が少なく、人権政策を進める杉並区にふさわしくない。	ページの構成にまとまりがなく、単元の配列の分かりにくさとあいまって、生徒の思考の流れにとって非効率的である。わかりにくい表現で新たな説明が必要なことは学習の効率化を妨げる。
6	日本神話が多くあつかわれている。伝聞の内容を史実のように記載している。他の教科書と比べ、人物の取り上げ方に違いがある。	古代の内容が多く、中世の内容が少ない。戦後史の扱いが浅い。	朝廷という記述が多く見られる。又、軍艦など兵器の写真が多い。	資料集との関連が弱く使いにくい。	地域性は感じられない。	戦前の復古的な内容を多く扱っており、戦後の扱いが不足している。またアジア理解を図る内容が他の教科書と異なっている。

7	庶民、市民の視点から捉えた内容が足りない。	歴史観や歴史的評価についての記述が多い。	文章表現が難しい。	周辺資料はまんべんなく配置されているが、キャプションが乏しい。	おおむね良い。	独自の歴史観や価値観が感じ取られ、中立性に欠ける。
8	見開き2ページで1時間分の内容にまとめ、分かりやすい配列になっている。各章に課題学習ページがあり、生徒自らが学習の深化を図れるよう工夫されている。内容の配分が古代に重きを置きすぎて、中世、近現代の内容が雑駁なものになっている。特に、世界恐慌への各国の対応や、原子爆弾の被害などの記述が他の教科書に比べ非常に少なく不十分である。					上記の通り、時間ごとの指導の流れはわかりやすい教科書であるが、しかし、全体の内容の配分がアンバランスであることや、偏った歴史観による記述が見られる。

9	世界の歴史や民衆に立った歴史単元が少ない。	古代に重点が置かれている。	説明調である。	年表が折込式でない。	地域性に関しては、特に支障ない。	主観的な表現が多く、一般的でない表現も多い。発展的な学習単元は少ない。
10	日本神話や天皇についての扱いが多い。	古代が多く、中世の記述が少ない。昭和天皇についてのコラム・脚注が多い。	文章が難解で、生徒が理解しにくい。	重要語句が太字になっていない。	特に本区の 特色に関連したものはない。	現生人類の脳量が2000ccと書いてあるが、これは誤記である。歴史の名場面として「日本海海戦」を取り上げ日露戦争を美化している。また、「アメリカ艦隊の日本訪問」は意図が不明瞭である。普通選挙法と治安維持法はいついとして議決されたがその表記がない。第二次世界大戦の始まりが世界恐慌から説明されていない。黄禍論、大東亜会議、大東亜共同宣言が重要語句として取り扱われている。大戦末の天皇の判断について「聖断下る」というタイトルになっている。為政者の立場が強く、民衆の生活や変革のエネルギーの記述がない。今日までの歴史研究の成果が生かされていない、一面的である。
11	時代によって本文の詳しさに大きな差が見られ、全体的にはバランスを欠いている。	他社に比べて、原始・古代を扱う割合が大きい。	歴史上の人物を随所で取り上げ、特に近世、近現代での人物の扱いが特徴的である。			本文中で重要事項が欠落することがあるので、それを補う必要がある。
12	本文よりコラムに歴史的解释を豊富に記述している。通し番号のため時代の区切りがない。	新しいが歴史的に不慣れな表記が多く出ている。日本文化の特徴や優位性を多く表現している。	学習のまとめは、作業に時間をかけるよう構成している。	資料の数字に新説を取り入れている。		文化について多くのページを割き、日本文化の豊かさが伝わってくるが、日本の伝統を重視しているため、多面的に歴史的事象を分析することに消極的な構成となっている。同じ文章の教科書があり、特徴が明記しにくい。
13	「読み物コラム」は内容に偏りがある。	全体の構成としては、歴史の流れをつかみやすい。	いいか悪いかは別にして、日本人の優秀さを強調する表現が目立つ。	偏った表現が多く使いづらい。	本区の実態に合致していると思える部分はない。	構成・分量はよいが、表現・表記や内容等においては、工夫がほしい教科書である。
14	中世の日本については24ページと少ない。 図・資料・本文のレイアウトが決まっている、その分、図・資料が小さいところがある。調べ学習はまとめのページで作業することになっている。					図や資料については小さくなっている点が気になる。前回とまったく同じなのは、図の差し替えや誤字の訂正をしてほしかった。
15		日本の文化遺産などでいねいに扱っている。	世界史的な視点がほしい。			日本の文化遺産などをていねいに扱っている。世界史的な視点は不十分。

16	教材は精選されているが、世界の歴史の扱いが少なく、日本の歴史との関連が希薄である。	教材配列は問題ない。	要点がとらえにくい文章表現で、精読したりポイントを把握するのが難しい。	印刷がきれいである。	特に問題ない。	要点がとらえにくく、一面的な記述が多いので、歴史を総合的、多面的に捉えることが難しいものとなっている。
17	大正時代から戦前・戦後の構成で、歴史の流れが把握しづらいところがある。					内容にも配分にも偏りがみられる。
18	古代史の分量が多い。	資料や地図の提示が小さい。	文章の表現が難しい。	農民や民衆の生活や変化の様子の記述が少ない。		古代の分量が多い点、農民や民衆の生活に関する記述が少ない点で、多面的な学習への広がりが弱い。
19	写真や資料が精選されている。	学習内容のまとまりが明確である。	語句等が高度な内容となった説明文である。	コラムが人物、読み物と別れ充実している。		語句等が高度な内容となった説明がされており、写真、資料が精選されている。
20	基礎的な内容はおさえてあり、さらに各時代ごとに詳しく細部にわたり記述してある内容も見受けられる。	人物コラムや読み物コラムがおおく配置されている。	写真や資料は多めになっている。			日本の伝統性を重視した内容になっている。コラムが多く、関心・意欲を歴史上の人物から導き出そうとしている。
21	歴史上の人物を取り上げている箇所数が多い。	「原始・古代」の占める割合が多い。	挿絵の数が少ない。注記・索引の項目数が多い。			各章に課題学習に取り組むページが設定してある。
22	総ページ234。基本的な内容が記載されている。	各章や単元の構成は適切に配分されている。	常態で記述されている。人物の写真が多用されている。	本文脇に詳細な説明がある。	大きな特徴はない。	自由社版と文章表現が重なる面が多い。人物写真が多用されている。
23	通史として読み物資料的に編集され、文化史に重点をおいた内容である。	1単位時間1単元構成で、必要な図版や写真、資料の分量も多い。	重要語句はゴシック表記とし、資料はオールカラーで挿入されている。	82の内容単元について通し番号を付し、学習進度を把握しやすい。	本地域の生徒の実態にあった内容で、地域の学習にも活用できる。	歴史上の人物や象徴的な場面についてのコラム欄が充実しており、生徒が自主的に学習するための学習課題が多い。文字資料が多く、その情報を読み取りながら学習することが可能である。